

海外留学/研修 危機管理について

昨今のテロ等の治安情勢については、ニュースやソーシャルネットワークで目にすることが多いと思います。本学で計画実施している海外研修は引率者が同行し、協定大学間で事前準備を十分に行いますが、海外研修中の事故や事件は予期出来ないケースも想定されます。特に海外では学生個人が安全確保、危機管理意識、報告連絡相談の重要性を理解し、自分の身は自分で守るという自覚を持って行動することが重要です。

1. 危機事象の種類と内容

以下に危機の種類とその内容を列挙します。様々な危機事象があるということを認識することで、危機管理の意識を高めましょう。

① 天災

地震、噴火、津波、洪水、ハリケーン、竜巻、雷、大雪など多くの種類があります。これらは強力な力を持っており、人間の力ではなすすべがありません。従って避難を第一に考えます。「自分のいるところが果たして安全か？」という確認を至急行い、行動しましょう。先ず自分の安全を確保してから、他人の救助を行います。

② 航空機・船舶危機

天災と同様、個人では対処のしようがない危機です。係員の誘導に従って粛々と避難します。避難時のパニックによる二次災害にも注意しましょう。

③ 交通危機

- ・道路横断時：自動車が右側通行の国の場合、横断時に注意する方向が逆になります。到着したばかりのころや疲れているときは特に注意しましょう。
- ・自転車：自転車の通行区分帯がはっきりしている国とそうではない国があります。自転車に乗る場合は、本人の責任において十分注意し行ってください。
- ・自動車：大学として、研修中の自動車運転を認めません。
- ・タクシー：移動距離や請求金額をメーターで表示しているか、信頼できるタクシー会社の車両かを注意します。移動先の住所・電話番号を携帯していることも必要です。

④ 不慮の危機

活動中の怪我や体調不良があり得ます。気温や時差の違いによる環境の変化や睡眠不足など、普段とは違う生活が続きますので、各自体調を管理し、無理をしないことが重要です。

⑤ 人の多く集まる場所

- ・すり/ひったくり：混雑する場所はすりやひったくりを狙われやすい場所です。貴重品を持って出かけない、不審者だと思ったら近づかない、バックは前に持つなどの注意をしましょう。

・ケンカ：自らの意思に反してケンカに巻き込まれてしまうことがあります。特に泥酔している人の近くにいと危険です。

・将棋倒し：特殊なお祭りやイベントなどでは、興奮した群衆による将棋倒しが発生することがあります。このような機会に参加した場合、群衆の中心部に居ないようにしましょう。また、終了後の地下鉄の階段などでも注意が必要です。

・テロリストによる爆弾/無差別攻撃

過激派組織の活動や個人による理由のはっきりしない無差別攻撃が発生しています。人の集まる場所に行く際には、周りの人物に注意を払う、非常口を確認しておくなど普段以上の注意をしましょう。

⑥ 政変

政変が発生するとマスコミからのニュースやインターネット環境が極端に制限される場合があります。在外公館からの情報を入手し、避難等早め早めの行動をしましょう。

⑦ 感染症

派遣先に特有の感染症を発症させるウィルスなどがある場合があります。出発前に現地の感染症について確認しておき、必要であれば予防接種を行いましょう。現地で発熱した場合は自分で判断せず速やかに引率者に報告し受診することや、医師の指示に従って服薬するなどの注意も必要です。

⑧ 動物

日本にはいない危険な動物や噛傷による狂犬病も要注意です。飼われている動物であってもむやみに触らないようにしましょう。もし傷害を被ったときは、傷口をきれいな水で洗い、ただちに医師にかかりましょう。

⑨ ドラッグ

所持しているだけで重罪になる国が多くあります。知らないうちに巻き込まれることのないよう注意が必要です。知らない人の荷物を預かってはいけません。

⑩ 法令違反

他人に危害を与えたり、迷惑をかけたりする行為は法令違反です。また、飲酒可能年齢など日本と異なる制限を設けている国も多くあります。外務省のホームページなどを通じて、現地の特別な法令を知っておくことも大切です。

⑪ メンタル疾患

環境、生活、人間関係の変化などから精神的に不安定になることがあります。自分自身についてや友人の行動など気になることがあったら引率者に相談報告しましょう。

⑫ 女性を狙った犯罪

外国人男性から日本人女性は、小さくてかわいい印象となるようです。それは裏を返せば、「狙いやすい」と思っていることになります。一人で夜間外出しない、深夜に及ぶ飲酒は避けるなど、日時、場所、状況をよく考えて行動しましょう。

⑬ 手口一覧

スリなどの手口を紹介します。(二人組が多い)

a) スリ

- ・ソフトクリームやケチャップをつけて気を引いたすきに狙う。
- ・乗り物や人ごみで接触したタイミングを狙う。
- ・警察官を装った偽警察官。

b) 置き引き

- ・特に注意が必要な場所：空港、レストラン、列車の荷物置き場、ホテル

c) ひったくり、強盗

- ・オートバイによるひったくり、エレベーター内など。

⑭ 賠償事故

ちょっとした不注意で加害者になってしまうことがあります。そのような場合、道徳的な責任は果たしますが、賠償金等については保険会社に任せましょう。

2. 危機管理方法

基本的な危機管理方法を覚えておきましょう。

① 危機そのものを避ける

研修中の移動や様々な活動からリスクをすべて排除することはできません。しかし避けられるリスクは避けるように努めることや、自分の行く先、行動予定にはどのようなリスクが存在するのかを常に考える癖をつけましょう。例えば、特に用もないのに人ごみの中にいることや、夜間の個人行動などは避けましょう。

② 予防する

例えば貴重品を持ち歩かない、目立つ格好をしないなど、損害を最小限にする方法を考えましょう。また、ひったくりに抵抗して怪我をさせられるなどといった二次被害を避けることも損害を軽減する手段です。

③ 保険を利用する

損害が発生してしまったら、損害を補てんする手段を使います。具体的には、保険の適用です。現地で必要な書類や証明書の発行もありますので、渡航前に加入した保険の補償内容と手続きについて理解し、現地では引率者に速やかに報告して対処しましょう。

3. 危機事象発生時

実際に危機事象が発生した場合は、速やかに引率者に報告することが原則です。場合によっては周りに助けを求めるなど、その際にできる最適、且つ柔軟な対応が必要となります。

① 多数の人が巻き込まれた危機の場合

天災・交通機関危機・テロ・政変など多数の人を巻き込む危機が発生した場合、まず身の安全を図ったうえで、引率者に状況を報告します。国外に避難する場合は、引率者が

在外公館、航空会社、保険会社に連絡し対応について助言を求めます。

② 傷害・疾病

動けない場合、緊急の場合は救急車を呼びます。治療を優先した後保険適用の手続き等を行います。

動ける場合は、保険会社と契約しているキャッシュレスで受診できる病院や日本語対応の病院などに掛かります。

③ 盗難や交通危機など事件性のあるもの

ただちに警察に届けます。クレジットカードやパスポートの盗難に遭った場合は、至急カード会社や在外公館に連絡をとります。

④ 賠償危機

人身危機や大きな物損危機の場合はただちに警察に届けます。その後、保険会社に報告します。

4. 事故報告連絡ルート

危機事象が発生した場合、引率者は別紙（海外研修 事故報告連絡ルート）に沿って大学へ状況を報告します。軽度の病気・怪我、入院を伴う病気・怪我について、現地との必要な報告連絡は、引率者と国際交流センターで中心的に行います。テロ・天災地変に遭遇した場合は、大学に事故対策本部を設け対応します。